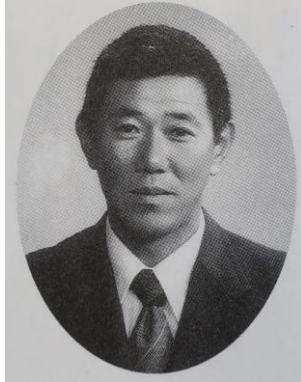


野 球 部 で の 思 い 出 ^(※1)高普第 10 回卒 菅 野 和 郎 ^(※2)

高校時代を思い出すと、50 年前になる。記憶は確かではないが、高 3 年生の春の県大会で、1 日で 3 試合をしたことが、今でもなつかしくよみがえります。

1 年生、2 年生の夏の大会までは、地区大会は双葉高に春も秋もはばまれ、夏の大会も初戦敗退とふるわなかった。

2 年生の秋季地区大会で、ようやく双葉高と原町高を破って県大会に出場、1 回戦で敗れはしたが、チームの皆に自信とやる気が湧いて、冬のトレーニングに西山の階段登り、山上のつり橋までのランニング、ダッシュ、バットスイング等これまで以上に頑張った。

年が明け昭和 32 年春季地区大会、勝ち抜いて再度県大会に出場出来た。当時県大会は地区代表 8 チーム、初日 1 回戦 4 試合、2 日目準決勝と決勝戦のダブルヘッダーの日程だった。

我々は初日 4 試合目、安積高と対戦、日没引分け再試合となり、翌日早朝から再戦、勝ちを収めた。

1 試合間において腹ごしらえをして、準決勝第 2 試合若松商高と対戦、これに勝った為に決勝戦福島商高との対戦となった。

部長先生が我々の疲れを心配、大会役員と話し合ったようだが、日程や宿泊費のこともあったのだろう、決行することに決定、気持ちはやる気満々だったものの、前日から 3 試合連投、4 試合目に入ったエース星 ^(※3) 君 (3 年前急逝) さすがにボールに力がなく、初回福島商高に先取点をとられてしまう。

2 回以降は継投で得点をゆるさなかったものの、我々にも反撃の力はなく、相手投手にノーヒットノーランの記録を献上して敗退した。しかし充分やったとの思いで帰路についたのを覚えている。

以後 OB や町の人達の応援で、それまではほとんど皆んなで縫ったボールで練習してたのが、新しいボールが多く混じって練習することが出来て、夏の大会も決勝戦進出・東北大会まで出場したが山形商高に敗れて甲子園には届かなかった。

今でも当時のメンバーが集い当時を思い出し、旧交を温め、後輩たちに夢を託している。

(※1) 創立 110 周年記念誌『紅の旗』(2009(平成 21)年 1 月発行) 「思い出の記」(ああ、我らが青春の日々よ) より

(※2) 昭和 33 (1958) 年卒、駒ヶ嶺出身。

(※3) 星 義治。昭和 34 (1959) 年卒、飯豊出身。